

2020年2月1日実施 奈良県立医科大学 推薦入試問題(数学)

【1】 以下の空欄を適切に埋めて文章を完成させよ.

以下の積分で定義された数列  $\{a_n\}$ ,  $\{b_n\}$  を考える.

$$a_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^n x \, dx, \quad b_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos^n x \, dx$$

(1)  $n \geq 2$  に対し,  $a_n = \boxed{\text{ア}}$   $a_{n-2}$  が成り立つ.

(2)  $n \geq 2$  に対し,  $b_n = \boxed{\text{イ}}$   $b_{n-2} - \frac{1}{n^2}$  が成り立つ.

(3)  $b_n = c_n a_n$  により数列  $\{c_n\}$  を定義すると,  $n \geq 2$  に対し,  $c_n = c_{n-2} - \frac{1}{\boxed{\text{ウ}} a_{n-2}}$  が成り立つ.

【2】 以下の問いに答えよ.

一辺の長さが  $a$  の正三角形  $ABC$  を考え, その重心を  $G$  とする.

(1)  $\overline{AX} = \overline{BX}$  をみたす点  $X$  全体からなる集合はどのような図形か答えよ.

(2)  $ABC$  の边上または内部にある点のうち,  $\overline{AP} \leq \overline{GP}$  をみたす点  $P$  全体からなる図形の面積を求めよ.

(3)  $ABC$  の边上または内部にある点のうち,  $\overline{GP} \leq \overline{AP}$ ,  $\overline{GP} \leq \overline{BP}$ ,  $\overline{GP} \leq \overline{CP}$  をみたす点  $P$  全体からなる図形の面積を求めよ.

【3】 以下の空欄を適切に埋めて文章を完成させよ。

空間内の位置ベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  は大きさ 1 で,  $\vec{a} \neq \vec{b}$  かつ  $\vec{a} \neq -\vec{b}$  とする. この空間内の原点を始点とする位置ベクトル  $\vec{r}$  に対し,  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて

$$f(\vec{r}) = \vec{r} - 2(\vec{r} \cdot \vec{a})\vec{a}, \quad g(\vec{r}) = \vec{r} - 2(\vec{r} \cdot \vec{b})\vec{b}$$

と定める. ただし,  $\vec{r} \cdot \vec{a}$  等はベクトルの内積を表す.

(1) ベクトル方程式  $f(\vec{r}) = \vec{r}$  をみたす  $\vec{r}$  の終点全体は, 原点を通り  に直交する平面をなす.

(2) 任意の位置ベクトル  $\vec{r}_1$ ,  $\vec{r}_2$  に対して,

$$f(\vec{r}_1) \cdot f(\vec{r}_2) = g(\vec{r}_1) \cdot g(\vec{r}_2) = \input{text} \text{イ}$$

および

$$g(f(\vec{r}_1)) \cdot g(f(\vec{r}_2)) = \input{text} \text{ウ}$$

が成り立つ.

(2)  $H = \{m\vec{a} + n\vec{b} \mid m, n \text{ は任意の実数}\}$  とする. 平面  $H$  内に, 互いに直交する大きさ 1 のベクトル  $\vec{e}_1$ ,  $\vec{e}_2$  を,  $\vec{e}_1 = \vec{a}$  となるようにとる.  $\vec{b}$  と  $\vec{e}_1$  のなす角を  $\theta$  とすると,  $\vec{b}$  は

$$\vec{b} = \cos\theta\vec{e}_1 + \sin\theta\vec{e}_2$$

と表すことができる. このとき,  $g(f(\vec{e}_1))$  と  $g(f(\vec{e}_2))$  を計算すると,

$$g(f(\vec{e}_1)) = \input{text} \text{エ} \vec{e}_1 + \input{text} \text{オ} \vec{e}_2$$

$$g(f(\vec{e}_2)) = -\input{text} \text{オ} \vec{e}_1 + \input{text} \text{エ} \vec{e}_2$$

【4】 以下の空欄を適切に埋めて文章を完成させよ.

Aさんは家から大学に行くのに  $n$  回電車に乗る. 雨が降っていたので, Aさんは傘を1本持って家を出発した. Aさんは, 傘を持って電車に乗るたびに, 確率  $\frac{1}{3n}$  で傘を車両に置き忘れるものとする.

(1) Aさんが傘を忘れずに大学にたどり着ける確率  $P_n$  は  である.  $1 \leq k \leq n$  なる  $k$  に対して,  $k$  番目の電車に傘を置き忘れる確率は  である. また,  $1 \leq i \leq j \leq n$  なる  $i$  と  $j$  に対して,  $j$  番目の電車から降りたあと, 今まで乗ったどれかの電車に傘を置き忘れたことに気づいたとき,  $i$  番目の電車で傘を置き忘れた確率は  である.

(2)  $\lim_{n \rightarrow \infty} P_n =$   である.

(3)  $n = 2m$  (偶数) とする.  $n$  番目の電車から降りたあと, 今まで乗ったどれかの電車に傘を置き忘れたことに気づいたとき, 1番目から  $m$  番目までのどれかの電車に傘を置き忘れた確率を  $Q_m$  とすると,  $\lim_{m \rightarrow \infty} Q_m =$   である.

【5】 正整数  $n$  に対し,

$$p(n) = n^3 + 2n^2 + n + 2020^2$$

と定めたとき, 以下を証明せよ. ただし, 立方数とはある正整数  $m$  を用いて  $m^3$  と表される数のことである.

(1)  $p(2019)$  は立方数である.

(2)  $p(n)$  が立方数となる最大の正整数は 2019 である.